

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域産業の担い手であると同時にグローバル社会にも対応できる人材を育成する教育活動を展開し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。 1. 基本的生活習慣やルール・マナーなどの規範意識を身につけた自律できる生徒を育成する。 2. ものづくり教育・工業教育の基盤ともいえる基礎学力を身につけた生徒を育成する。 3. 教職員の資質向上を図るとともに生徒のモチベーションを高め、ものづくり教育を推進する。 4. 社会人・職業人として自立し、豊かな心と人権感覚をもった、社会ひいては世界に貢献できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 豊かな人間性の育成・社会性の醸成 (1) 人権感覚豊かな心の育成及び社会の秩序・ルールを確実に守る規範意識の醸成 ア あいさつの励行や遅刻をしないなどの基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成に努める。 イ いじめの予防に重点を置き、安心安全な学校づくりに努めるため、学期ごとに生徒に対しアンケートを実施する。 ※遅刻数について 500 回を下回ることを目標として努力する。(R4 566、R5 424 R6 442) (2) 美化・清掃活動の強化による規範意識の醸成 ア 美化・清掃活動に全校で取り組む。 ※生徒向け学校教育自己診断の「校内美化」に関する項目における満足度 (R4 75.4%、R5 75.2%、R6 80.6%) は75%以上を維持できるよう努める。 (3) グローバル人材の育成 ア ものづくりニッポンを海外に発信する素地を作るため、海外の高校生との交流を図り、グローバル感覚を育成する。 ※海外の複数の高校との交流を推進する。 ※ユネスコスクールキャンディデート校として、ESD および SDGs を意識した教育活動の取組みを推進し、ユネスコスクールの正式加盟をめざす。
2 確かな学力への取組みと進路保障 (1) 基礎学力の定着を図り、進学希望も含めた様々な進路のニーズに応えるため、「主体的・対話的で深い学び」をめざして授業改善に取り組む。 ア 英語・数学等の授業において、少人数授業を実施し、基礎学力の充実を図る。 イ 再編整備計画(工科改編)に基づいて、「PBL 学習」を推進する。その際には ESD および SDGs の趣旨を意識したものとし、「キャリアガイダンス」「総合的な探究の時間」や「課題研究」での全校的な取組みを計画的に進める。 ウ 生徒の自己肯定感や自己有用感の向上と「主体的・対話的で深い学び」のために、実社会において有用な資格の取得を奨励する。 エ 新型コロナウイルス感染症に係る対応として、ICT を活用した学びの校内体制整備を継続して推進する。 オ グローバル化や情報化が加速度的に進展する社会で、必要となる語学力(英語)の育成に努める。 ※生徒向け学校教育自己診断の「学力の向上」に関する肯定率 (R4 80%、R5 81.6%、R6 86.6%) は80%以上を維持できるよう努める。 ※資格試験の合格率 (R4 67%、R5 57.1%、R6 70.8%) 65%以上をめざす。 ※TOEIC Bridge にチャレンジする生徒数 10 人以上をめざす。(R6 24 人) (2) 同僚性を高め、積極的に資質向上に取り組む。 ア 授業アンケート及び相互の授業見学を通して、授業力の向上をめざす。 イ 各系や教科を中心に経験年数の少ない教員等の学習会や技術力向上等の研修会を開催し、授業力の向上をめざす。 ウ 英語および数学、実習での少人数展開授業を実施し、生徒の学力定着を保障していく。 エ 会議等のあり方を検討するとともに、全校一斉退庁日やノークラブデー(部活動休養日)を明確にし、日々の定時退庁に努めるなど働き方改革を推進する。 ※生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすく楽しい」肯定率 (R4 79.5%、R5 84.4%、R6 87.1%) は80%以上を維持するように努める。 ※教職員向け学校教育自己診断における「教育活動全般にわたる評価と改善」肯定率 (R4 76.1%、R5 75.6%、R6 80.6%) は70%以上を維持するよう努める。 (3) 生徒の自己実現への支援 ア 人権教育・教育相談体制の充実並びに支援教育コーディネーター等による要配慮生徒へのサポート体制の充実 イ 3年間を見通した進路指導の充実 ウ 保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底を図り、食物アレルギー等に係る事故防止や熱中症、新型コロナ等の感染症、食中毒の予防に努める。 ※入学時には中学校訪問等で生徒情報の把握に努め、SC や校長マネジメント費を活用した SSW とも連携し要配慮生徒へのサポートを行う。 ※生徒向け学校教育自己診断の「進路指導関連」項目の肯定率 (R4 90.6%、R5 90.2%、R6 94.2%) は90%以上を維持できるよう努める。 ※3年間を見通した進路・キャリア指導の充実を図り、就職一次内定率(R4 91.4% R5 89.5%、R6 94.2%)は85%以上を、年度末内定率については100%を維持できるよう努める(R4 100%、R5 100%、R6 100%)。
3 ものづくり・地域連携等を通したキャリア教育の充実と開かれた学校づくりを進める (1) 地域産業連携重点型校として、ものづくりを通して地域貢献と保護者との連携により地域に根ざした学校づくりを推進する。 ア 生徒による校内企業「城工房」や「キャリアガイダンス」「総合的な探究」「課題研究」における企業連携等により、地域や地元企業の協力のもと、さまざまな活動を推進する事で地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。 イ 保護者と学校が一体となった学校づくりを行う。 ウ 小中学校や行政機関・大学と連携した小中学生対象の「ものづくり教室」や「出前授業」等を行い生徒の外部交流への参加や発表の機会を増大する。 ※地元企業との連携と地域へのさらなる情報発信をめざして設立した「城工メッセ」(地元企業紹介イベント等)の充実・発展を図る。 ※保護者のものづくり教育への理解を深めるために、PTA と連携した事業に取り組む。 ※成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数 (R4 38 回、R5 38 回、R6 48 回) は30 回以上を維持できるよう努める。 (2) 学校の教育活動内容等をタイムリーに府民へ情報発信し、学校 PR に努める。 ※保護者向け学校教育自己診断「家庭と学校の連携や教育情報の提供」肯定率85%以上をめざす。(R4 82.9%、R5 83.5%、R6 83.3%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
アンケート回収率 生 徒 98.6% 保護者 34.7% 教 員 97.2% (東大阪みらい工科と共通)	第1回(令和7年7月2日) 【働き方改革について】 ・人を増やさないと、だれが仕事をするのか。今働いている会社では、残業0時間、工程が組めるものであればできるが、学校はそうはいかないだろう。先生も減らされているのに、部活動等の指導が減っていない以上は、仕事の負担が大きくなるばかりではないか。

府立城東工科高等学校

○生徒 ・肯定的回答が 85%以上の項目は 17 項目中 16 項目 ・肯定的回答が 16 項目中 15 項目で上昇（1 項目は新設のため比較なし） ・特に「人権」、「教育相談」の項目では肯定的回答が 7.5%を超えて上昇しており、本校の取り組みが生徒の回答に表れている。 ・「SDG s」の項目では肯定的回答が 5.4%減少しているが、86.8%は一昨年とほぼ同数である。 ○保護者 ・肯定的回答が 85%以上の項目は 16 項目中 12 項目 ・肯定的回答が 15 項目中 8 項目で上昇（1 項目は新設のため比較なし） ・「進路指導」、「教育情報の提供」の項目では肯定的回答が 5 %を超えて上昇している。 ・「教育相談」の項目では肯定的回答が 4.3%減少しているが、肯定的回答 86.9%は一昨年度よりも高い数値である。 ○教員（城東工科と共通） ・肯定的回答が 85%以上の項目は 16 項目中 11 項目 ・肯定的回答が 15 項目中 6 項目で上昇（1 項目は新設のため比較なし） ・「遅刻」、「いじめ対応」の項目について、肯定的回答は 85%を超えている（一昨年度とほぼ同数）が昨年度に比べ 10%以上減少しており、昨年度よりも取り組めていないと感じている教員が多い。一方で生徒の肯定的回答は 90%を超えており生徒の満足度は高い。 ・「教育相談」の項目については、昨年度よりも 15%以上減少しており、一昨年度よりも低く、「生徒が学級担任以外と相談できている」と感じている教員が減少している。	・大東市として部活動を支える体制があり、助かっている。しかし、大東市では、警告的に今年から 80 時間が 3 か月以上続いている場合など、産業医とオンラインで面談を実施している。 ・私の会社では。繁忙期と閑散期の差が大きい。業務が遅れすぎて、土日や夜勤などに仕事するしかないが、週休や夜勤などで働いたら、次の週の一日は必ず休みなさいとなっている。忙しい部署とそうでない部署との差があったり、労基からの指示があるなど、労働環境などに頭を抱えている。 ・その厳しい環境の中でも、残業時間短縮に努力していかなければならない。 ・目の前の生徒が頑張っているのを見ると、やっていたいと思うのが教員であると思う。それだけ指導に時間をかけたくなる。 【令和 10 年度以降の公立高等学校入学選抜に係る学校特色枠について】 ・ものづくりの好きな子をとってほしい。 ・より高次の学びを得てものづくりに関わってほしい。 ・どの中学校でも、面接指導は必ずやっているし、プレゼン指導も自己申告書の指導と同じようにできるのではないかな。 ・面接やプレゼンなどは、将来必要となるのでよいのではないかな。
	第 2 回（令和 7 年 10 月 29 日） 【全体的な内容について】 ・工業高校にいきたいと思われるように、中学校の先生や保護者を巻き込んでいく必要がある。 ・2 年後、東大阪市には本校だけになることから、東大阪市から市政だよりなど、アピールしてもらえれば効果があるのではないかな。先生たちの努力というよりか、社会が変わっていいかないといけないのでは？小学校の授業の中でものづくりの楽しさを伝えていけたら良いのでは？ ・韓国の高校さんとの交流や、尖った特色を作っていくことについて、この学校へ行くと楽しそうと思えるような内容を検討してほしい。 ・創造的なものづくり、中学校で困っていることを手助けする、中学校の先生や生徒にも工業高校や社会にもわかってもらい、特色を尖らせた内容について委員会を作って考えていけばよいのでは？内容に戦略を立てて広報 PR 内容を考えてほしい。
	第 3 回（令和 8 年 1 月 16 日） 【全体的な内容について】 ・課題研究については課題設定、取組み、効果検証、発表など、問題解決型の学習ができています。ぜひとも続けてもらいたい。 ・本校だけに限ったことではないが、ネット環境と現実との違いを分けることができない生徒が出てきているのではないかな。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 豊かな人間性・社会性の醸成	(1) 人権感覚豊かな心の育成、社会の秩序・ルールを守る規範意識の醸成	(1) ア・生徒会、部活動部員等生徒を主体とした「あいさつ運動」の実施 ・遅刻の撲滅をめざし、生活指導部と学年等の連携による早朝登校指導の推進 ・3 年間を見通した人権ホームルーム計画の策定・実施 ・新入生オリエンテーションで部活動紹介を実施。部活動部員からの勧誘等で部活動加入を奨励 イ・教員間の情報共有を密にして、いじめの予兆を察知するとともに、予兆段階から生活指導上の厳しい指導を実施	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「あいさつ」肯定的回答 90%以上を維持[95.5%] ・総遅刻数 500 回以下をめざす[442 回 ＊東大阪みらい工科高等学校含む ・生徒向け学校教育自己診断の「人権教育の充実」肯定的回答 80%以上を維持 [87.6%] ・5 月末段階の部活動加入率 70%以上を維持 [69.1%]＊東大阪みらい工科高等学校含む	(1) ア・95.7% ○ ・567 回 ○ ・96.4% ◎ ・77.9% ◎
	(2) 美化・清掃活動の強化	(2) ア・保健部、学年、生徒会等の連携で美化・清掃活動の推進	(2) ア・生徒向け学校教育自己診断「校内美化」満足度 75%以上を維持[80.6%]	(2) ア・83.6% ○
	(3) グローバル人材の育成	(3) ア・海外高校生との交流実施 イ ESD および SDGs を意識した活動を推進することで、地域や世界への関心を高めグローバル感覚を育成 ウ 「図書部」を活用した生徒への SDGs への取組みの意識の啓発	(3) ア・交流回数 6 回以上[6 回] イ・各教科・各系や特活部での SDGs を意識した授業や取組みの実践[取組件数 6 件] ウ・SDGs への取組みの意識を啓発する図書館だよりの定期的な発行 [12 号]	(3) ア・6 回 ○ イ・5 件 ○ ウ・9 号 ○

府立城東工科高等学校

2	確かな学力への取組みと進路保障	(1) 基礎学力の定着と「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業改善の取組み (2) 同僚性を高め、積極的に資質向上に取り組む。 (3) 生徒の自己実現への支援	(1) ア・少人数による丁寧な授業を実施による生徒の学力向上意識の高揚 イ・SDGsを意識したPBL学習について研究・実践を進める ウ・生徒への資格取得の推奨と講習の充実 エ・グループウェアの活用と1人1台端末の活用推進とオンライン授業の体制整備 オ・英語検定の受検推奨 (2) ア・授業アンケート結果及び相互授業参観に基づき、改善方策を検討する イ・経験年数の少ない教員等の学習会や技術力向上の研修会、企業への見学や外部との交流会等を開催し、授業力の向上をめざす ウ・少人数展開教科科目において、担当者同士で授業の進度や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有し学力向上方策の検討 エ・学校部活動方針（休養日等）の遵守及び全校一斉定時退庁日の遵守を推進する。また、学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化する (3) ア・支援教育コーディネーターと生活指導部・保健部との連携を強化し、配慮を要する生徒へのサポート体制の充実を図る。またカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導力の向上を図る イ・3年間を通したキャリア教育を計画的に推進し、生徒の自己実現を支援する。全教員が進路指導担当であるという意識を醸成し、面接指導等において進路部と学年を中心に連携を強化 ウ・保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底を図る	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「学力の向上」肯定率80%以上を維持[86.6%] イ・各教科・各系で教材開発やPBL導入授業の実施。 ウ・資格試験受験者の合格率65%以上の維持[70.8%] エ・各教科や各系でグループウェアおよび1人1台端末を活用した授業や教材研究の実施 オ・TOEIC Bridgeの受験者数10人以上[24人] (2) ア・生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定率80%以上を維持[87.1%] ・授業見学週間の年2回実施[2回] イ・公開研究授業や校内研修会等を実施5回以上[6回] ウ・教職員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価と改善」肯定率を75%以上[80.6%] エ・1人当たりの平均超過勤務時間数を昨年度より5%削減をめざす[37.7h]（2月末現在） ・安全衛生委員会を毎月開催[12回] (3) ア・支援教育コーディネーターによる配慮を要する生徒及び保護者への面談を確実に実施[93回] ・入学生出身中学校訪問による生徒情報の把握とSSWの雇用と活用推進 ・SSW等による講演会などの校内研修実施[1回] イ・生徒向け学校教育自己診断「就職・進学指導や説明」肯定率90%以上の維持をめざす[94.2%] ・就職一次内定率3か年平均で85%以上をめざす[90.3%] ・年度末の就職率100%維持[100%] ウ・保健部を中心に保健だより[10号]や放送による予防啓発活動の実施	(1) ア・89.7%　○ イ・系、科においてPBL導入授業を実施している○ ウ・79.0%　◎ エ・系、科においてPBL導入授業を実施している○ オ・12人　○ (2) ア・90.7%　○ ・今年度は行事計画には示さず、各教科・学年等で声掛けをして教員間で随時実施している○ イ・10回　◎ ウ・81.4%　◎ エ・35.5h(2月末現在)　○ ・毎月開催している12回　○ (3) ア・15回　○ ・中学校訪問を実施し情報を得ている　○ ・5回　○ イ・94.7%　○ ・87.3%　○ ・100%　○ ウ・10号　○
3	ものづくり・地域連携・キャリア教育の充実と開かれた学校づくり	(1) ものづくりを通して地域貢献・保護者との連携による地域に根ざした学校づくりの推進 (2) 学校の教育活動内容等をタイムリーに府民へ情報発信し、学校PRに努める	(1) ア・生徒による校内企業「城工房」等の地域交流や「企業連携事業」の推進、および各種競技会等への生徒の参加 イ・ものづくり教育への理解と深化を図るための保護者対象実習体験や、地元企業見学会の実施 ウ・小中学校や行政機関・大学との連携事業の実施 (2) ア・ホームページ・SNSを活用して、タイムリーな情報発信に努める	(1) ア・「城工房」その他による成果発表、種々競技会、産業教育フェア、地域イベント等への参加・実施回数等25回以上を維持する[36回] ・企業連携の取組み件数10件以上を維持する[29件] イ・PTA実習研修、授業見学会、地元企業見学会の実施3回以上実施[3回] ウ・小中学生対象の「ものづくり教室」や「出前授業」等の実施[13回] (2) ア・ホームページ・SNSの発信を推進し、情報発信の頻度を増加する。特にSNS発信回数100回以上を維持する[114回]。	(1) ア・26回　○ ・30件　○ イ・3回　○ ウ・23回　◎ (2) ア・153回　◎